

2023年度

科目名称	道徳教育の理論と実践（中）
授業コード	BN108
英語名称	
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	吉村 日出東 (教育人間科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本授業では、学校における道徳に関する教育の歴史的展開を考察することを通して、価値観の推移と道徳教育のあり方について検討し、現代的課題に応えられる道徳教育を探求することを目的とします。 上記の目的を達成するため、戦前と戦後を価値の転換の基軸としてとらえ、戦前の修身と戦後の道徳それぞれの授業内容について検討し、その過程で今日まで影響を与えた価値と課題について明らかにしていきます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	中学校教員としての経験を踏まえて、担当者の持つ学校教育現場の経験的な内容についても講義する。
到達目標	この授業では、学校における道徳に関する教育の歴史的展開を考察することを通して、価値観の推移と道徳教育のあり方について検討し、現代的課題に応えられる道徳教育を探求することを目的としています。この目的を達成するため、 ○道徳的価値について、時代の変化によって変わるものと変わらないものがあることを理解できるようになる。 ことを掲げて、 ○国民道徳の在り方を考えられるようになる。 ○個人道徳の形成について関心を持てるようになる。 以上の知識理解を基にして、今後受講者の皆さん自身が道徳教育のあり方を自分で構築していく方法を学んでいくものとします。 (科目特有の知識・技術についての到達目標) また、 道徳を学ぶことを通して、社会における価値観と自己の行動原理について、考え、行動できるようになる。 (汎用能力としての学士力についての到達目標)
計画・内容	以下に示したテーマについて講義を進行し、時にディスカッションを組み合わせしていく予定です。 第1回 道徳教育とはどんなものか 第2回 西村茂樹の道徳教育 1-西村茂樹について 第3回 西村茂樹の道徳教育 2-日本道徳論を読む 第4回 教育勅語成立までの道徳論 第5回 教育勅語について 第6回 小学修身教科書と徳目 第7回 テーマ討論 1-国民道徳について考える 第8回 宇佐美寛の道徳論 第9回 法則化運動と道徳 第10回 コールバーグ理論 第11回 テーマ討論 2-学校で行う道徳とはどんなものか 第12回 テーマ討論 3-社会における価値と自己の持つ価値観について考える 第13回 道徳教育には何が必要なのか 第14回 特別の教科道徳と新学習指導要領 第15回 まとめ また、この他に「国旗・国家」など社会的問題となった価値についてのテーマ討論も行いたいと考えています。

2023年度

授業の進め方	本授業では、道徳に関する資料を配布します。その資料についての内容理解をしたのち、課題点を考えていきます。このため、配布資料についての読解を予習として行ってください。実際に読めないところがあっても、授業で教員が読みますので、無理なところは飛ばし読みしても構いません。
能動的な学びの実施	授業では、価値観についての多様性について考えていきます。そこで、内容の理解の後、道徳的行為についての疑問点や違和感を学生同士が共有できるように、討論形式の場を用意します。参加者人数によりますが、グループ討論又は教室全体でのディスカッションを積極的に行います。
授業時間外の学修	授業の進め方にある通り、配布資料を予習として読んできてください。また、テーマ討論を設けますので、それに対する準備としての調べ学習を行ってもらいます。 予習：参考図書等のもくじに目を通す（時間 45分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 90分）
教科書・参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』
成績評価方法と基準	成績評価方法は次の通りです。 各授業回に提出された課題（50％） テスト（最終レポート）（50％）、で評価します。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーなどについては、できる範囲内で、授業内で紹介して、お互いの考えを共有できるようにします。 その他、課題などについても、できる限り紹介し、多様な価値観を理解していきます。
オフィスアワー	CampusSquare参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面授業なった場合は次の通りとします。 「 授業の進め方」 授業回で取り上げる「計画・内容」は、上記の対面と同様のものを基本として行います。但し、非対面のため、掲示に授業の課題と講義を提示しますので、それに対して、レポートをレポート欄に提出してもらいます。この場合、そのレポートの進捗状況に応じて、「計画・内容」の一部変更、分野ごとの増減など、を行うことがあります。 なお、一部については、zoomにより行う場合があります。 成績評価基準」 成績は、非対面の中で提出してもらったレポートと最後に課す「試験に替わるレポート」を総合して評価します。 評価の割合は、 毎回のレポートを70％、試験に替わるレポートを30％